

開催ご案内（開催要領）

一般社団法人 日本飼料用米振興協会（j-fra）は、「**飼料用米を活かす日本型循環畜産推進交流集会 飼料用米多収日本一表彰式・飼料用米畜産物ブランド表様式、飼料用米普及のためのシンポジウム2018**」を開催します。

開催要領

開催日時：2018年3月9日（金）

10:30 開場、

11:00～12:00 シンポジウム 第一部、 14:30～17:00 シンポジウム 第二部

12:00～12:55 展示・試食は昼休憩時間

13:00～14:10 飼料用米多収日本一表彰式・飼料用米畜産物ブランド表様式を開催します。

12:00～12:55 弥生講堂ロビーで資料展示、会議室で試食会を行います。

会場：東京大学弥生講堂（一条ホール・会議室）（286名収容可能）。

東京都文京区弥生1-1-1 東大弥生キャンパス

参加費無料

ホームページ（<http://www.j-fra.or.jp/>）で参加者募集を行いました。

ホール内で飲食ができません。試食では飼料用米育ちの豚肉、ゆで卵を用意しました。

開催趣旨

今年、平成30年産から、日本のコメ政策は大きくカジを切り、国による米生産数量目標の「配分」はなくなり、全国の需要量の見通しを示す「情報提供」に変わります。

また、10aあたり7,500円の米の直接支払交付金は廃止となります。

国は需要に応じた生産を推進するため、業務用米需要への対応、播種前契約等による安定取引の推進、多収品種による飼料用米の本作化などを打ち出し、現場で混乱が生じないように務めています。

米政策改革の進展は稲作農家の大きな関心事です。とくに米価の変動は稲作農家の収入に直結しておりますが、販売競争は今後、一層激化するものと思われま

す。一般社団法人飼料用米振興協会は、2007年に起きた、世界的な穀物相場の高騰の中で、稲作と畜産の経営改善を図ることを目的としてスタートし、飼料用米の普及活動を中心として活動をしてまいりました。

今後の食糧の自給率の向上を目指すうえで、主食用米、飼料用米を合わせ国産米の今後の動向は大変関心の高いところです。コメに対する関心を高め、今後の方向性を探るために、一昨年（2016年11月1日）、昨年（2017年11月15日）と2度の「コメ政策と飼料用米の今後に関する意見交換会」を開催いたしました。様々な意見を頂戴しております。今後、一つ一つの課題を改善を図ると同時に政府に対して、飼料自給率の向上への一層の奨励策を要望いたします。

経緯

本協会は、2008年（平成20年）に穀物価格が高騰したいわゆる「畜産・大パニック！」の際に、国内の畜産農業を守り、食料自給率の向上などを目的に開催された「学習会」を起点に組織された「超多収穫米普及連絡会」が原点。その後、飼料用米の普及や、日本型循環畜産と農業、流通、消費の連携などを目指して活動してきた7年間の活動実績を踏まえて、2014年（平成26年）4月にさらなる推進のため、組織の一般社団法人化を実現した。

（2015年3月20日）、法人化第1回（通算8回目）の「飼料用米普及のためのシンポジウム2015」。

（2016年3月11日）、法人化第2回（通算9回目）の「飼料用米普及のためのシンポジウム2016」。

（2017年3月17日）、法人化第3回（通算10回目記念）「飼料用米多収日本一表彰式、飼料用米普及のための式、シンポジウム2017」を開催してきました。

今年、（2018年3月9日）、法人化第4回（通算11回目）「飼料用米多収日本一表彰式・飼料用米畜産物ブランド日本一表彰式 飼料用米普及のためのシンポジウム2018」を開催いたします。

従来推進してきた「飼料用米の利点」（給与された家畜（鶏卵、鶏肉、牛肉、牛乳、豚肉製品の食味の改善

など)の成果を強調し、普及促進をしてきました。今後、国内外の様々な経済的変動、畜産・農業環境の大きな変化を背景に、食料自給率の向上が大きな課題となってきたことを受けて、食料自給率を巡る話題や特に米国における農産物に対する助成金の実態など国際的な農産物の安全保障上の問題点を掘り下げてまいります。

今年のシンポジウムの内容紹介

今年、「飼料用米多収日本一表彰式・飼料用米畜産物ブランド日本一表彰式」という二つの日本一表彰式を挟んで、「飼料用米普及のためのシンポジウム2018」と「展示・試食会」の実質四部構成となっています。

シンポジウム第一部

当協会および日本生活協同組合連合会のご挨拶、農林水産省による基調講演を用意しました。

日本における食料自給力の向上を目指す立場から主食用米および飼料用米の生産から普及への政策について農林水産省生産局畜産部飼料課および政策統括官穀物課によるご挨拶と基調講演としてお願いしました。

資料展示（ロビー）

東京農業大学農学部畜産マネジメント研究室（飼料用米の低コスト生産など）、
農事組合法人会田共同養鶏組合（温泉たまご等）
太陽工業株式会社（飼料用米の屋外・常温保管ユニット）、
昭和産業株式会社（オール国産配合飼料使用鶏卵：和のしずく）
株式会社木村牧場（粉碎粳米飼料用米給与の養豚事業と巨大ビニールハウス粳米の保管）、
中国工業株式会社（飼料用米粉砕添加装置マイスター）、
雪印種苗株式会社（いねWCS 粳米用乳酸菌）、
東都生活協同組合（資料配布）

試食会（会議室）

農事組合法人会田共同養鶏組合（温泉たまご）
昭和産業株式会社（オール国産配合飼料使用鶏卵：和のしずく）
株式会社木村牧場（粉碎粳米飼料用米給与のつがる豚）、

飼料用米多収日本一表彰式・飼料用米畜産物ブランド日本一表彰式

昨年に引き続き、一般社団法人日本飼料用米振興協会と農林水産省が共同で実施してきました「飼料用米多収日本一表彰事業」と今年度新たに発足しました「飼料用米活用畜産物ブランド日本一表彰事業」（一般社団法人日本養豚協会が農林水産省の補助事業で実施し、農林水産省が後援）の受賞者の紹介と表彰式を開催します。

シンポジウム第二部では、飼料用米の普及事業の様々な事例や課題を紹介します。

昨年度と今年の二年続きで日本飼料用米振興協会は、東京農業大学、全国農業協同組合連合会と「飼料用多収穫米の栽培に関する研究」契約を締結し、新品種「オオナリ」などの栽培試験に取り組みました。

今回のシンポジウムではこれらの成果とともに、東京農業大学が取り組んできた「飼料用米生産における低コスト化の取り組み」などに関する集大成を報告します。

青森県の株式会社木村牧場は、飼料用米の粳付きでの利用を実施し、そのための飼料用米の集荷、保管、利用の面での高効率化、低コスト化を追求しています。これまでの事業報告と今後の計画などについて報告していただきます。

関東甲信越に生協の活動を展開するコープデリ生活協同組合連合会（(略称：コープデリ連合会）は、関東信越の生協（コープみらい・いばらきコープ・とちぎコープ・コープぐんま・コープながの・コープにいがた・コープクルコ）の連合会です。商品・物流・生産・システム・経理・人事教育などの共通基盤を整備し、宅配事業・店舗事業・サービス事業などの本部機能を共同で作り上げています。※コープみらいは、千

葉県・埼玉県・東京都を事業エリアとする生協です。今後の課題として、産直豚肉 = お米育ち豚100%、2018年度10万頭（約70%）を実現し、今後、協力農場（生産者）の確保・飼料用米の産地指定・商品への農場表示・お米育ち若鶏・国産飼料100%育ち豚を目指します。

農事組合法人会田共同養鶏組合は生活クラブ長野と協議会を発足させ、①国内自給率の向上。②NonGM原料利用による安心安全は卵の供給。③循環型農業の確立に貢献。鶏に給与する飼料用米の配合量について議論を行って実績を積み上げ、今後、さらに鶏に給与する飼料用米の配合量について議論を行っています。

以上の様々な研究や事業、消費に至る飼料用米の一貫した様々な取り組みを理解していただく「集い」として企画しました。多くの消費者、主婦をはじめ、配合飼料メーカー、物流事業者、保管事業者、農業協同組合、農事法人、農家、研究者、学生などの方々が理解しやすい日本における水田のフル活用、飼料用米の利活用について皆様と考え、交流する場として運営いたします。

シンポジウム会場で講演・報告者の資料を配布します。事前作成のため、当日変更します部分が発生しますが、最終発表資料は、終了後、直ちに最終報告資料としてホームページでPDFを掲示します。

意見交流会、懇親会の開催

シンポジウム終了後、東京大学消費生協の農学部食堂で希望者による交流懇親会を開催します。

17:30から有料で3,500円。ホームページで事前募集していますが、当日の参加も受け付けますので、ご遠慮なくご相談ください。当日の受付でご希望を承ります。シンポジウム終了時にも確認します。

飼料用米普及のためのシンポジウム2018

主催 : 一般社団法人 日本飼料用米振興協会

正社員 : 生活クラブ事業連合生活協同組合連合会

全国農業協同組合連合会

木徳神糧株式会社

昭和産業株式会社

株式会社秋川牧園

シンジェンタジャパン株式会社

中国工業株式会社

ヤンマーアグリジャパン株式会社

中野区消費者団体連絡会

NPO未来舎

賛助会員 : 日本生活協同組合連合会

生活協同組合おかやまコープ

庄内みどり農業協同組合、

栃木県開拓農業協同組合

株式会社平田牧場

J A加美よつば農業協同組合、

滋賀県飼料米利活用推進協議会

太陽工業株式会社

協賛団体 : コープデリ生活協同組合連合会 東都生活協同組合 生活クラブ事業連合生活協同組合連合会

飼料用米多収日本一表彰式

主催 : 一般社団法人日本飼料用米振興協会 ・ 農林水産省

後援 : 全国農業協同組合中央会 全国農業協同組合連合会 協同組合日本飼料工業会

協力 : 日本農業新聞

飼料用米畜産物ブランド日本一表彰式

主催 : 一般社団法人日本養豚協会

後援 : 農林水産省、全国農業協同組合中央会、公益社団法人中央畜産会

プログラム

通算11回 飼料用米を活かす日本型循環畜産推進交流集会

飼料用米多収日本一・畜産物ブランド日本一表彰式、

飼料用米普及のためのシンポジウム2018

日時：平成30年3月9日(金) 開場：10:30 開会：11:00

会場：東京大学弥生キャンパス 弥生講堂(一条ホール、ロビー、会議室)

プログラム

総合進行役 若狭良治(理事・事務局長)

11:00~12:00 飼料用米普及のためのシンポジウム2018 第一部

主催者挨拶	一般社団法人 日本飼料用米振興協会	理事長 海老澤 恵子	7
連帯の挨拶	日本生活協同組合連合会	専務理事 和田 寿昭	8
挨拶	農林水産省生産局畜産部飼料課流通飼料対策室	室長 三上 卓矢	10
基調講演	「水田フル活用と飼料用米の定着に向けて」 農林水産省政策統括官穀物課	課長 堺田 輝也	11

12:00~13:00

展示、試食、休憩 (資料展示 ロビー、試食会 会議室)

13:00~14:10 表彰式

平成29年度 飼料用米多収日本一表彰式 農林水産省穀物課小口課長補佐が司会 25

主催：一般社団法人日本飼料用米振興協会、農林水産省
 挨拶：農林水産副大臣 磯崎 陽輔
 表彰状・副賞の授与 農林水産大臣賞 単位収量の部及び地域の平均単収からの増収の部
 // 政策統括官賞 //
 // 全国農業協同組合中央会会長賞 //
 // 全国農業協同組合連合会会長賞 //
 // 協同組合日本飼料工業会会長賞 //
 // 日本農業新聞賞 //
 農林水産大臣賞の受賞者の挨拶(河野享功)
 // (海地博志)
 全体撮影：授与者及び受賞者

平成29年度 飼料用米畜産物ブランド日本一表彰式 日本養豚協会の倉本専務が司会 39

主催：一般社団法人日本養豚協会 後援：農林水産省、全国農業協同組合中央会、中央畜産会
 挨拶：(一社)日本養豚協会 会長 志澤 勝
 結果発表及び講評：福田 晋九州大学大学院農学研究院院長(審査委員長)
 表彰状・副賞の授与 農林水産大臣賞
 // 政策統括官賞
 // 全国農業協同組合中央会会長賞
 // 中央畜産会会長賞
 農林水産大臣賞の受賞者の挨拶(平田牧場 代表者挨拶)
 全体撮影：授与者及び受賞者

14:10~14:30 休憩 舞台装置変更

14:30~16:30 飼料用米普及のためのシンポジウム2018 第二部

特別報告	飼料用米の低コスト生産の展望について 東京農業大学畜産マネジメント研究室	教授 信岡 誠治	44
活動報告1	養豚経営における飼料用米活用(集荷から給与までの流通改革) 株式会社木村牧場	代表取締役社長 木村洋文	59
活動報告2	「お米育ち豚プロジェクト」利用を広げる取り組みについて コープデリ生活協同組合連合会 CSR 推進室	室長 岩佐 透	67

活動報告 3	飼料用米を活用した耕畜連繫と銘柄卵の確立	組合長理事	上村博文	72
質疑応答	農事組合法人会田共同養鶏組合 進行役 一般社団法人 日本飼料用米振興協会	理事・事務局長	若狹良治	109

16:30~16:45	閉会挨拶	一般社団法人 日本飼料用米振興協会 副理事長 加藤 好一 (生活クラブ事業連合生活協同組合連合会 会長)		110
-------------	------	---	--	-----

	資料掲載ページの紹介	太陽工業株式会社、雪印種苗株式会社		112
		東京大学弥生キャンパス(弥生講堂) 周辺のお食事処マップ		115

17:30~19:00 情報交流会(希望者 3,500円)
会場移動 農学3号館(正門正面の建物地下)東大生協食堂
シンポジウム終了後、受付に集合してください。事務局がご案内します。

※ 事故防止対策、公衆衛生対策、開催要件は東京大学の規則規定に従います。

12:00~13:00

展示、試食、休憩

●資料展示のご紹介 (ロビー展示)

東京農業大学農学部畜産マネジメント研究室(飼料用米の低コスト生産など)、 **活動報告44頁**
農事組合法人会田共同養鶏組合(温泉たまご) **活動報告72頁**
太陽工業株式会社(飼料用米の屋外・常温保管ユニット)、 **資料を111~112頁に掲載**
昭和産業株式会社(オール国産配合飼料使用鶏卵:和のしずく)
株式会社木村牧場(粉碎粳米飼料用米給与の養豚事業と巨大ビニールハウス粳米の保管)、 **活動報告59頁**
中国工業株式会社(飼料用米粉碎添加装置マイスター)、
雪印種苗株式会社(いねWCS 粳米用乳酸菌)、 **資料を113頁に掲載**
東都生活協同組合(資料配布)

●試食のご紹介 (ロビー展示)

農事組合法人会田共同養鶏組合(温泉たまご)、 **活動報告72頁**
昭和産業株式会社(オール国産配合飼料使用鶏卵:和のしずく)
株式会社木村牧場(粉碎粳米飼料用米給与のつがる豚)、 **活動報告59頁**